

富士見市防災環境カルテ

南畑第1町会

位置番号 27

概況

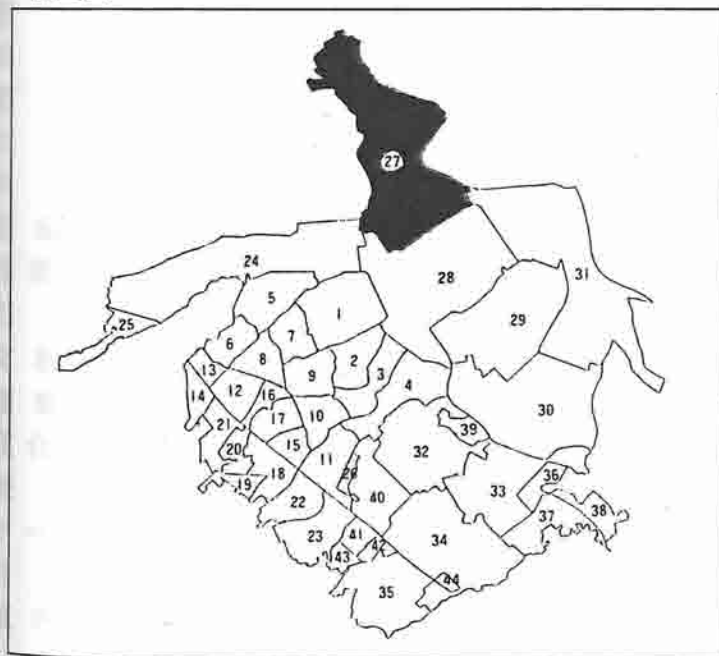
南畑第1町会は、富士見市の北部に位置し、西側は上福岡市に面し、行政界に並行した小高いところ（自然堤防）の集落と、東側はびん沼川（旧荒川）に面した水田地帯（氾濫平野）で形成されている。

環境は、田園に囲まれた良好な地域で、町会の北部には、東大久保生活改善センター、老人福祉センター、県立富士見青年の家があり、びん沼水辺ゾーンとなっている。南部には、農業センター、東大久保浄水場の公共施設がある。

外水災害は、近年荒川の改修・整備が進み発生していない。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨による灌漑用水路の溢水のため、水田・畑が冠水する内水災害が予想される。

地震災害は、この地域が軟弱地盤のため、水田地帯で液状化による被害が予想される。

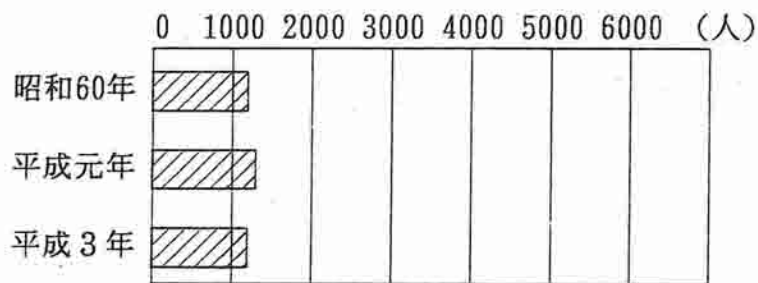
位置図



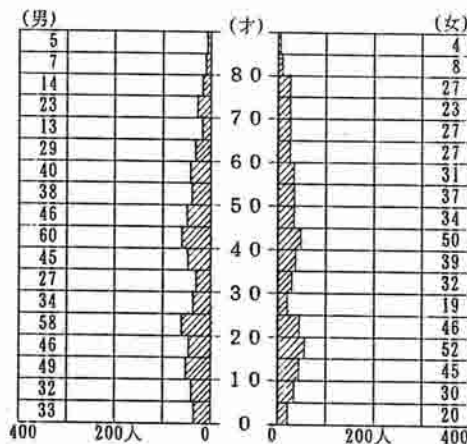
1. 基礎指標

・面積	1,882 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	600人
女	556人
計	1,156人
・人口密度	614.2人/km ²
・寝たきり老人数	5人
・ひとり暮らし老人数	2人
・世帯数	296世帯

人口推移

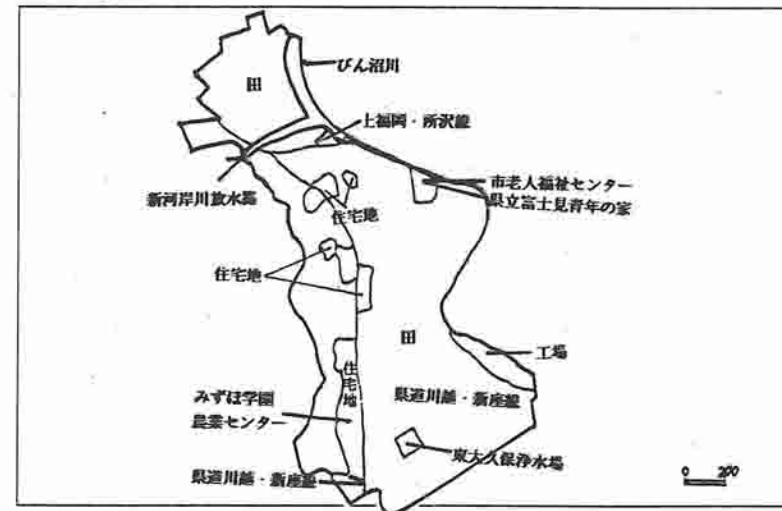


年齢別人口(平成3年)

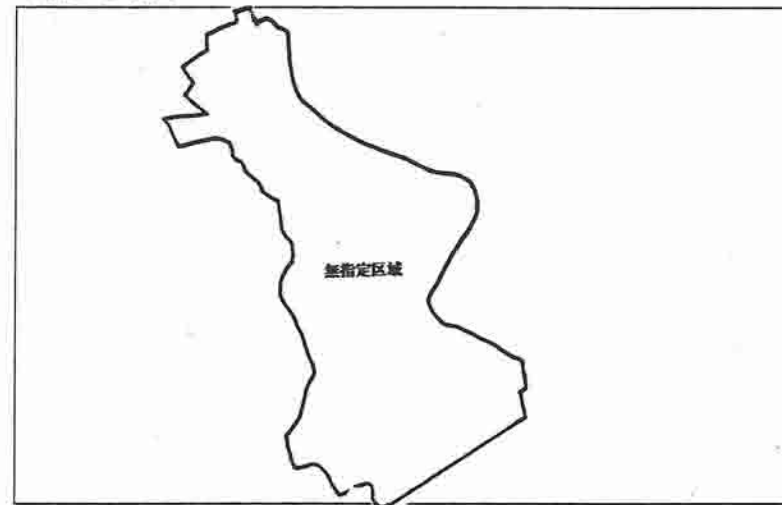


・商住工混在率住居系	85.2%
店舗系	1.7%
工業系	13.1%

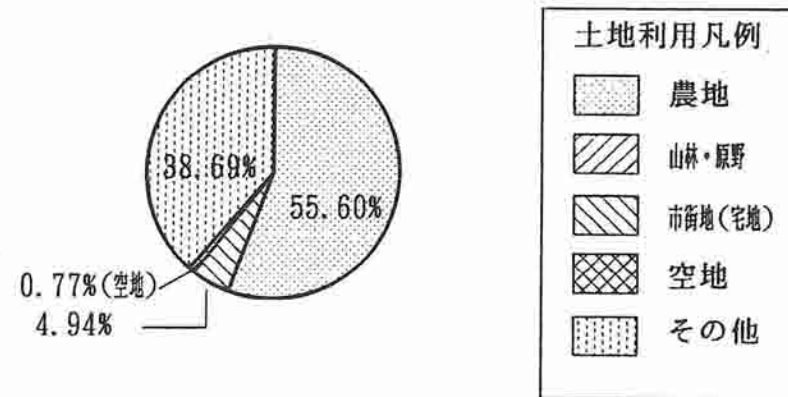
町会現況図



用途地域図



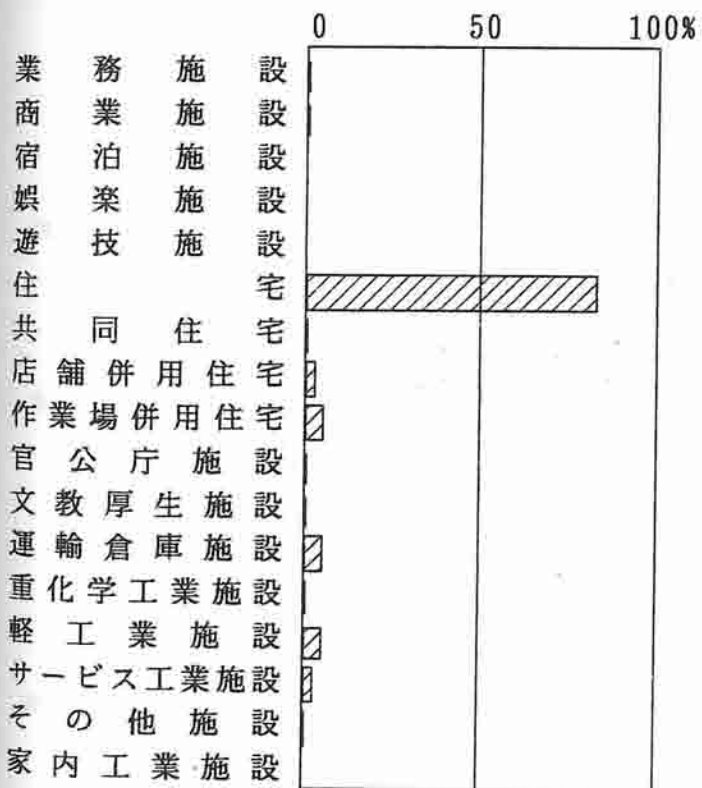
土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	694棟	
木造建物	573棟	
非木造建物	121棟	
・建物面積	45,259.70㎡	
木造建物	33,593.26㎡	
非木造建物	11,666.44㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	82.7%	
・木造率	82.6% (573棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	164棟	
・同上率	28.6%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	423棟	73.8%
2階以上	150棟	26.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	61本	32.4本/㎢
・幹線道路率	5本	2.7本/㎢
・公共空地面積	15,032.1㎡	
・公共空地率	0.8%	
・1人あたり公共空地	13.0㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 長谷寺*	4,149.1㎡	
6. 市立老人福祉センター*	10,883.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	60本
・1消火栓あたり世帯数	4.9世帯/本
・消防水利貯水施設数	5 (0) か所 () 内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第4分団倉庫

5. 危険物指標

・給油取扱所	4か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	1か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(瓊18号)	1棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(平成 3年 ~ 年)			1件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	4か所	三本木樋管 欠間樋管 砂原樋管 南畑樋管
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

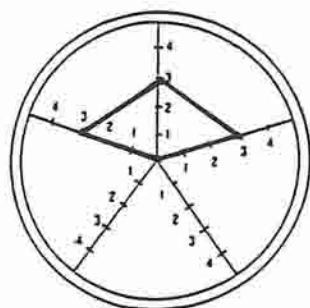
・内水災害危険度	3ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	0ランク

地盤	地盤の地震動危険度	びん沼 4	3ランク
危険度	液状化危険度	〃 4	3ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、10～30mの沖積層の軟弱地盤のため、小高い所（自然堤防）にある集落で震度6（-）（烈震の弱い方）、水田地帯（氾濫平野）で震度6（+）（烈震の弱い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	びん沼川（旧荒川）沿いに三本木樋管、欠間樋管、砂原樋管が3箇所、新河岸川沿いに南畑樋管が1箇所、計5箇所に樋管が設置されている。
2. 外水災害	現在は、荒川の河川改修・整備が進み、発生していない。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため木造建物の倒壊に対して注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は低いとみてよい。	4. 防火能力	集落の木造家屋の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が100%と高いため、延焼の危険性は低い	5. 避難収容力	避難所は、老人福祉センターと長谷寺であるが、避難地の1人当たりの有効面積を1～2㎡を目安とすれば、本町会の1人あたりの公共空地は、13.0㎡/人と見込まれるため収容力は、十分と思われる。
6. その他の災害	水田地帯は、軟弱地盤のため、液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

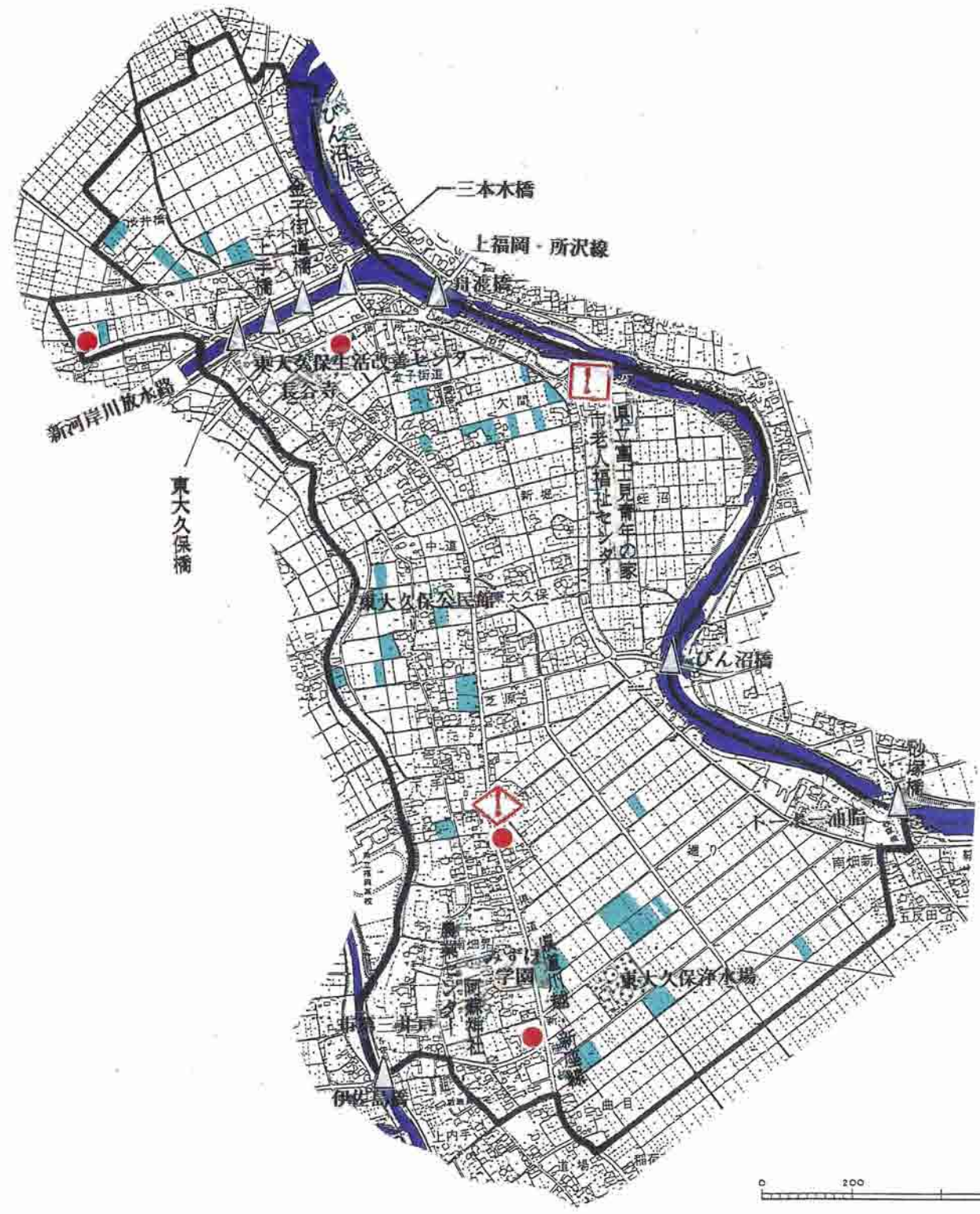
内水災害については、灌漑用水路からの溢水を防止するために、主要な灌漑用水路に排水ポンプ場を設ける必要がある。

地震災害の危険性は、液状化が予想される水田地帯で大きい。水田以外の用途で使用している建物は、建物のまわりの地中に連続壁や矢板などを設けて、液状化対策が必要である。

避難可能な道路の幅員は十分とはいえない。集落の沿道に点在する自動販売機の転倒、ブロック塀の倒壊防止の対策指導を行い、災害時に、これら転倒物、倒壊物による道路の狭隘化を予防することが重要である。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

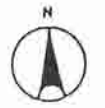
防災現況図A(災害発生要因)



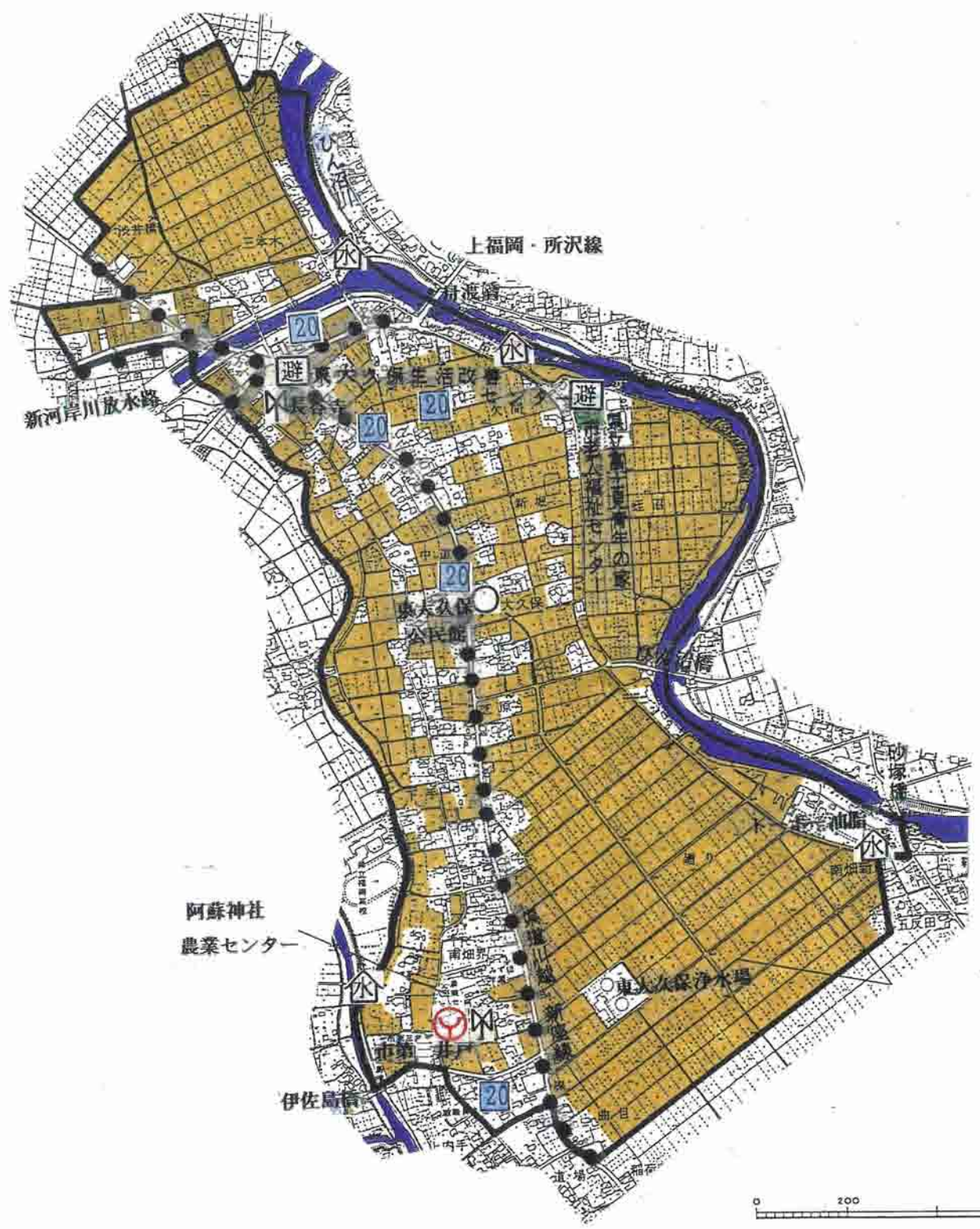
凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水 防 施 設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

